

6月定例所長会見における発電所長挨拶内容

所長の横村でございます。

福島第一原子力発電所の事故から5年3ヶ月が経過いたしました。未だ、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけし続けている状況について、あらためて心よりお詫び申し上げます。

本日、私からは2点お話しをさせていただきます。

はじめに、原子力規制委員会による審査の対応状況についてです。当発電所6、7号機については、2013年9月に新規制基準に基づく適合性審査の申請を行い、現在、原子力規制委員会による審査が継続的に実施されております。

プラント関係の審査につきましては、原子力規制委員会より設備の耐震評価手法に関して、妥当性や保守性について追加の説明を求められておりましたが、5月26日の審査会合において解析精度を高めた解析モデルに関するご説明をさせていただきました。解析データの揃う今月中には、既設の工事認可の際に用いている手法との差異を含めた基本方針の成立性についてご説明してまいりたいと考えております。引き続き、原子力規制委員会への審査に真摯に対応をしてまいります。

次に、発電所内の安全対策の取り組み状況についてです。

このたび、7号機の格納容器内に設置を進めておりましたコリウムシールドが5月末までに完成いたしました。コリウムシールドは、万一の原子炉格納容器下部への溶融燃料落下に際しても、格納容器

の健全性を保つことを目的に自主的な取り組みとして設置をするものです。

格納容器下部については、厚さ約 1.6mのコンクリートで構成されており、十分な対浸食性を有しているものと考えておりますが、コンクリート厚さの異なる液体廃棄物処理設備が設置されている一部のエリアについて、耐熱性の非常に優れたコリウムシールドで保護することにより、格納容器の損傷リスクの低減が図れるものと考えております。

発電所では、燃料を損傷させないための対策を幾重にも講じているところですが、さらに先のリスクに対しても十分に備えていくという考えの下、安全性の向上に努めております。

最後に、私ごととなりますが、すでにお知らせをしているとおり、6月29日付けで柏崎刈羽原子力発電所長の任を離れることとなりました。

平成22年6月の着任から6年間、地域の皆さまをはじめ、国や地元自治体、そして報道関係者の皆さま方など、大変多くの方々から貴重なご意見、ご支援、ご指導を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

思い返しますと、着任した翌年の3月11日に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所の事故が発生しました。原子力事業者としてこれほどの申し訳なさや無念な思いに至ったことはありませんでした。あの事故を教訓に、この柏崎刈羽原子力発電所を世界で最も安全性の高い、そして地域の皆さまから安心いただける発電所にしていかなければならないとの強い決意で、ただ一心に安全性の向上と発電所を支える人を育てる、このことに注力してきた6年間でした。後任となる新所長設楽にも、安全性の追求に終わりはない、人が発電所を作るという思いをしっかりと伝え、さらに進化し

2016年6月9日

た発電所を目指していくよう申し伝えます。

また、この地において、多くの方々にお会いし、多くのことを学ばせていただきましたことは、何物にも代えがたい私の貴重な財産となりました。震災以降、地域の方々から多くの励ましの言葉を頂戴し、そのたびに勇気づけられたことは忘れることができません。皆さまから数え切れないほどのご厚情を賜りましたことに、あらためて御礼を申し上げたいと思います。

柏崎刈羽原子力発電所には、1号機の営業運転開始からこれまでに通算で4度18年間にわたって勤務をしてまいりました。この柏崎刈羽地域は、私にとって第二の故郷のような地です。今後の発電所と地域との共生、そして柏崎刈羽地域のますますのご発展を祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

本日、私からは以上です。

以 上